

論文の内容の要旨

論文題名

Survey of the time-onset profiles of nedaplatin-induced adverse events in head and neck cancer therapy
(頭頸部癌患者を対象としたネダプラチンを含む化学放射線併用療法における有害事象発現時期に関する検討)

掲載雑誌名(巻・号・頁・掲載年)

Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy
(Vol. 48 No. 2 P. 207-210 2021 年)

薬学研究科 薬学専攻(病院薬剤学) 博士課程 星 茜

内容要旨 600 字以内

【背景・目的】シスプラチン (CDDP) は、頭頸部癌の標準治療薬であるが、腎不全を含む重篤な有害事象を生じるため、腎機能・心機能低下患者では治療の中止の可能性がある。一方、ネダプラチン (CDGP) は水分負荷の必要がないため、昭和大学病院 (当院) では CDGP によるレジメンを施行している。しかし、CDGP は諸外国での情報が少なく、有害事象の発現時期に関する安全性の情報を集積することは重要である。そこで本研究では、CDGP が含む頭頸部癌治療の有害事象の発現時期を明らかにし、安全性に配慮した治療を行うため調査した。

【方法】2012 年 4 月～2015 年 3 月に当院で CDGP、テガフル・ギメラシル・オテラシルおよび放射線併用療法を受けた頭頸部癌患者を対象とし、診療録等より検査値異常と口腔粘膜炎の重症度と有害事象の発現時期を後向きに調査した。

【結果】対象患者 38 名 (男性/女性 : 32/6 名) において PLT は中央値 28 日目 (21～49 日目) の期間に最低値となり、WBC も同様の傾向であった。S-Cre の Grade1 以上の症例は 5 名のみであった。口腔粘膜炎では 30Gy (21 日目) で 20 名が Grade2 以上を発現した。

【考察】以上より、治療開始から 3 週間程度で有害事象 (PLT・WBC の減少および口腔粘膜炎) の発現時期が重なっていたことから、これらの時期を想定して重篤化回避に備えることが重要と考えられた。

(596 字)